

三重県清掃 事業連合会

一廃事業者が研修会開催

市町村担当者らも参加

(一社)三重県清掃事業連合会(片野宣之会長)は4月24日、同県四日市市のプラトンホテル四日市で、「平成26年度研修会」を開催した。会員の他、来賓として県担当者など11人が出席、県内市町村の行政担当者らや(一社)全国清掃事業連合会の所属団体からも多数参加した。



研修会のようす

同会は「みえ清掃事業協議会」を前身として、2013年4月1日に一般社団法人化した。開会のあいさつに立った片野会長は、「今年3月には、災害時の廃棄物処理に関する応援協定を地元三重県と締結した。今後も、県内の一般廃棄物処理業者の相互理解と連携のもと、さらに会員拡大を図り、廃棄物の適正処理や減量化、再資源化に寄与していきたい」と話した。

研修では、まず環境省中部地方事務所・廃棄物リサイクル対策課の小岩真之課長が登壇。「廃棄物リサイクル行政の動向について」をテーマに話題を提供。次に、(一社)全国清掃事業連合会の山田久専務理事が、「現行廃掃法における一廃・産廃の区分について」と題した講演を行った。